



FŪ

EN

# 楓園

## CONTENTS

- |                             |                  |
|-----------------------------|------------------|
| 1— 特集 東洋英和の後援会              | 9— 大学 大学院 NEWS   |
| 4— 小学部 NEWS                 | 12— 行事報告 9月～11月  |
| 5— 中高部 NEWS                 | 13— この人に聞く 関 啓子  |
| 7— 東洋英和幼稚園 NEWS・かえで幼稚園 NEWS | 14— 聖書の言葉・英和探訪   |
| 8— 学院 NEWS・史料室レター           | 15— 英和の植物通信・お知らせ |



### ■ 小学部スキー教室

3月に長野県の熊の湯スキー場にてスキー検定を受けています。父の会のお父様方が、そのサポートをしてくださっています。

# 東洋英和の後援会

わたしたちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っていますから、  
 預言の賜物を受けていれば、信仰に応じて預言し、奉仕の賜物を受けていれば、  
 奉仕に専念しなさい。また、教える人は教えに、勧める人は勧めに精を出しなさい。  
 施しをする人は惜しまず施し、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は快く行いなさい。

ローマの信徒への手紙 一三章六〜八節

東洋英和の特徴として、保護者の方々の多岐にわたる学院活動へのご協力があげられます。今回は特にお父様方全員が会員である「後援会」の歴史と活動をご紹介します。

## 後援会の歩み

### 「校地と新校舎を」 五〇周年に向け保護者が結束

後援会の始まりは今から八〇年以上も前に遡ります。しかし、最初のころは現在のように常に後援会が存在する形ではなく、学院の校地拡張・校舎新設などの必要が生ずるたびに組織されていました。

一九二九（昭和四）年、当時の校長であったミス・ハミルトンは五年後にひかえた創立五〇周年に向けて着々と構想を練っていました。ハミルトン先生の人気で生徒数も増加していたことから、校地拡張のための東島居坂町二番地（現六本木五丁目交差点のフォーラム付近）の取得、新校舎の建設は必至と考えたのです。

それに応ずるように保護者から声があがり、設立されたのが後援会でした。その年の九月一日、

父兄世話人の清水由松（当時、東洋英和女学校常任理事・麻布中学校長）、畠山一清（荏原製作所創業者）、福井菊三郎（三井合名会社専務理事）、牧山清砂（帝国製糖会社専務取締役）、森広蔵（台湾銀行頭取）の連名で「東洋英和女学校後援会」設立の案内状が生徒の保護者全員に発送されました。同月一九日父兄会が開かれ、後援会組織の可否を求めたところ、参会者の大多数をもって、後援会設立が承認されました。これが後援会の始まりです。

後援会は生徒一名につき、毎月一円を三年にわたり寄付する「通



第一回後援会寄附者芳名録

常寄付」と、一口一〇〇円の「特別寄付」との二つの寄付方法を設け、寄付金の募集をしました。昭和恐慌による不景気の中でありながら後援会は見事に目標額二万八千円（現在の約五千万円）を達成します。そのお金を校舎新築会計に寄付して後援会は解散となりました。この後援会の寄付と、同時に募

## 後援会会長 横山 巖氏（アオインネオン株式会社代表取締役社長）インタビュー

- 横山様は後援会会長にご就任されてから何年目ですか？  
2005年度より就任いたしまして6年目です。
- お父様達の結束力の秘密を教えてください。  
「娘の父」というちょっと複雑な思いを共有している同胞感が結束力に繋がっているのかと思います。お父様方の学院でのボランティア活動は、いずれは巣立ってゆく娘への愛情表現のひとつのようにも感じます。
- お父様達から見た英和生の印象は？  
園児から生徒、学生まで共通して感じるのは、明るく活発でお茶目なことですが、爽やかな挨拶や心遣いに加え、式典の本番での集中力や切り替えの見事さ、学業やクラブ活動などで目標達成に向かう精神力や団結力を見せて頂く度に、これぞ英和生だと感心しています。
- 後援会に関して心に残る出来事を教えてください。  
「楓の会」が生まれたことです。池田守男理事長・院長が広い視点でお考えになった設立のご趣旨に感動し、後援会として全力でご支援いたし

- て参りました。私どもの力は小さく、お役に立てたかどうか心もとないのですが、2年余にわたる学院のご労苦の末に会が見事にスタートされましたことはとても喜ばしく感慨無量です。
- 後援会活動の中で大切にしていっていることは何ですか？  
会長就任時に富田浩安前会長から様々なご指導を賜りました。側面から学院、先生方のお力になれるよう微力ながら尽くすことが一番の責務と考えています。
- 後援会のこれからについて一言お願いします。  
毎年行われる学院とお父様方との懇談会は、多くの貴重な意見交換が成され大いに実りあるものです。学院のご厚意に感謝申し上げますと共に、今後も続けて頂けますようお願いしております。



後援会役員一覧

第一回後援会 (一九一九～一九三二)	発起人	
	清水由松 (東洋英和女学校常任理事・麻布中学校長)	
	畠山一清 (荏原製作所創業者)	
	福井菊三郎 (三井合名会社専務理事)	
	牧山清砂 (帝國製糖会社専務取締役)	
第二回後援会 (一九四一～一九四二)	理事長	
	潮 恵之輔 (枢密院顧問官・内務大臣)	
	理事	
	一万田尚登 (日銀総裁・大蔵大臣)	
	植村甲午郎 (第3代経団連会長)	
	小林 中 (初代日本開発銀行総裁)	
	齋藤茂吉 (歌人・精神科医) ほかに40名	
	顧問	
	福井菊三郎	
	森 広蔵 (海軍大臣・総理大臣)	
戦後の後援会	会長	
	1947～79年度	一万田尚登
	1980～85年度	石橋徳次郎
	1986～93年度	生田允紀
	1994～96年度	佐久間英樹
	1997～2000年度	阿倍義高
	2001～2004年度	富田浩安
2005年度～	横山 巖	



第二回後援会役員と学校役職者 (前列左から四人目が潮恵之輔後援会理事長)

「東洋英和のためなれば」戦時下での校地拡張  
二度目の後援会結成は一九四一(昭和一六)年になります。この年の暮れには日本は太平洋戦争に突入し、「東洋英和」も校名を「東洋永和」と変え、宣教師達の母国への引き揚げも始まりカナダからの援助も途絶え、学校の財政基盤が大きく揺らいだ時期でした。そのような折に隣接する熊本邸より、学校に地所購入の希望があるなら、具体的に金額などを提示してほしいという申し出があり、その地所

を運動場にあてる計画が一気に具体化しました。保護者の中から有力な数氏を招き、学校側の榎村辨市先生・長野彌先生との懇談の結果、「学校が購入を決定すれば、父兄側は最善をつくして協力する」との話が決まりました。もとこの校地拡張に熱心であった保護者は、早速に後援会を組織して募金に乗り出しました。後援会理事に潮恵之輔(枢密院顧問官・内務大臣)、一万田尚登(日銀総裁・大蔵大臣)、植村甲午郎(第三代経団連会長)、小林中(初代日本開発銀行総裁)、齋藤茂吉(歌人・

精神科医)ら錚々たるメンバー40人が選ばれ、理事長には潮恵之輔が選任されました。理事の他に顧問を三人置き、福井菊三郎、森広蔵、米内光政(海軍大臣・総理大臣)が就任しました。まるで歴史の教科書を繙くような陣容です。募集の期間は三年間の予定で、



上：運動場落成感謝式 下：同日、広くなった運動場での最初の運動会(1942年)

前後援会会長 富田 浩安氏 (学院評議員 株式会社日の丸リムジン代表取締役社長) インタビュー

●富田様は何年間、後援会会長をお務めくださいましたか？  
120周年記念行事などがあった2001年度から2004年度の4年間です。  
●後援会に関して心に残った出来事を教えてください。  
後援会が開かれる度に感じていたことですが、後援会活動に多くの父兄が参加してくれましたこと、そして、特に母親のみならず父兄の積極的な参加が印象に残っております。  
これは、他の学校の後援会ではあまりみられない英和の後援会活動に関する素晴らしい伝統、特色になっていると思います。  
●後援会活動の中で大切にされていたことは何ですか？  
後援会は、子どもの教育環境・教育の内容・家庭の役割等、子どもを育てる上での種々の問題について、学校側と問題意識を共有し解決を図る、また必要に応じて学院側をサポートする役割があると思います。そのため、父兄の積極的な参加、意見交換を通じての学院側と父兄の信頼関係の構築を最も大切に参りました。

●お父様達から見た当時の英和生の印象は？  
英和の生徒は、昔から都会の学生の中でも洗練されたセンスの良さを特色としていますが、やはり「敬神奉仕」の教育方針のもと人格形成がなされているせいか、素直で、人を思いやる温かい心もち、個性豊かな生徒が多かったと思います。  
●東洋英和の未来に何を期待されますか？  
これからの日本は、少子高齢化や大きく変動する世界経済の中における日本の経済環境、犯罪が多発する社会等、一段と厳しい状況におかれることと思う。その様な社会で立派に活躍できる子どもを育てるにはどうしたら良いのか、また教育環境をどの様に整えていくのか課題を多く抱えていると思います。生徒が社会の一員として、未来の社会に羽ばたくことが出来る様、社会の変化に対応可能な生徒を育てられる特色のある学校、より存在感のある学校に向けて進んでいただきたい。



目標金額は二五万円、募金の対象は在校生の保護者と卒業生でした。翌年、後援会は早々と目標を達成し再び解散します。この事業の中で、学院は後援会の理事達の貴重な意見を聞く機会を得て、それ以来、理事のみならず、保護者と学院との間に緊密な連帯が生まれ、学院の教育事業をよく理解し合う関係の素地ができていきました。



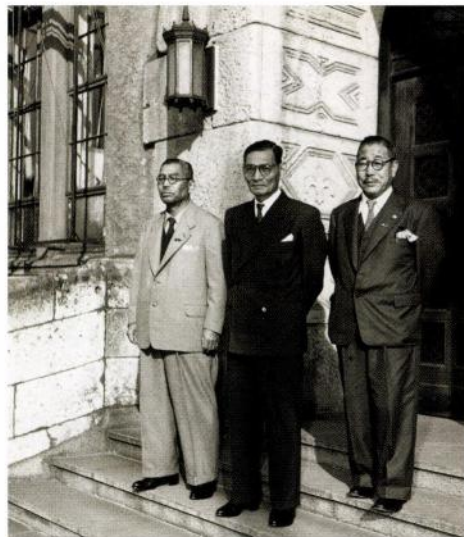
寄附御礼状 (1942年)

「教育に当たる人に、  
金の心配はさせない」

学院が財政的に援助を必要としている折々に結成されてきた後援会でしたが、最大の危機は戦後の学校の復興でした。学校財政は大変苦しかったのですが、実吉邸跡約二〇〇坪（現在の本部・大学院棟の場所）、東久邇邸跡約三〇〇坪その他の土地（現在の幼稚園・小学部）の場所）が売りに出されました。この機会を逃したら二度と鳥居坂での校地拡

大はのぞめません。そこで学院は土地買収に踏み切り、長野彌院長の学校経営の優れた才能により、まずはカナダ・ミッションからの援助を得ました。しかし何よりも力になったのは後援会でした。後援会会長となった一万田尚登の「教育に当たる人に、金の心配はさせない」との信念によって、学校の経済面の援助を行う目的で

一九四七（昭和二二）年四月に後援会が組織され、財界・実業界の有力者が名を連ねました。従って募金活動もきわめて積極的で、校内寄付のみならず、広範囲の校外寄付が推進されました。これらの後援会の支援と人脈によって、学院は校地拡張を実現、幼稚園から短期大学までの一貫教育が、東京都内の恵まれた立地条件のもとで実施できることとなりました。長野院長は「戦後の困難な時代から今日に至るまでの学院発展のために、後援会は大きな力を以って援助して下されたのである」と感謝の辞を述べています。



戦後の後援会役員 左より安藤忠三郎副会長、一万田尚登会長、加藤陸策副会長

奉仕活動にまで広がる学院への支援

後援会が現在のよう組織になったのは、後援会規約を作り、構成員・目的・役員・会費等を定めた一九六三（昭和三八）年からであると考えられます。規約によれば後援会は、在校生の保護者が会員となり、学院の発展を期するため、教育施設の整備、教職員の福利厚生、その他教育上必要な事項に対する後援を目的とする、とあります。また一九九八（平成一〇）年度以降は、「楓基金」への組み入れ助成を実施し、学院の財政基盤を堅固なものとしていきます。

後援会総会では会計報告等や役員選出、その他の規約上の議事のほか理事長・院長また各部の代表者による学院の近況報告や懇親会も行われています。また秋には後援会役員懇談会を開催し、各部の教員と懇談し、学院のために提言をする機会もあります。

このような学院との交流の中で、会員の方々が学院のためにご奉仕くださる企画も広がり、野尻キャンパスサイトの整備や警備等、多くの方面で活躍していただいています。

歴史をたどると学校とご家庭との深い連携をもって、東洋英和が成り立ってきたことがよく分かります。後援会会員として過去において学院をお支えくださり現在に至るまでご尽力くださっている多くの方々には感謝申し上げます。

東洋英和女学院 後援会の1年

7月 後援会総会・役員会

後援会で一番大きな会合です。役員だけでなく会員である保護者の方々も一堂に会し、交流の時を持ちます。教職員も参加するので、先生方と熱心に懇談している保護者の方も多く見られます。

- 役員会では…
  - ・新役員の紹介
  - ・退任・新任の常任役員の承認
  - ・前年度決算報告 本年度予算案の審議
- 総会では…
  - ・後援会会長挨拶
  - ・教員より各部の教育の現状報告
- 懇親会では…
  - ・後援会会員同士、教職員とともに歓談

10月 後援会役員懇談会

この会合は後援会役員を中心に行われます。各部ごとに8つの分科会に分かれ、担当の教員とともにディスカッションを重ねます。この協議から各部の教育現場に保護者のご意見が反映され、貴重な課題が見えてきます。

3月 後援会・母の会役員・学院懇談会

この会合では、「後援会=父」「母の会=母」「学院」の3者の立場から、学院の諸問題について懇談します。

〜できる時に、できることをやる会〜

設立目的

小学部の活動の中でもユニークな存在である「父の会」は、寺澤東彦前部長の呼びかけにより、二〇〇二年四月に発足いたしました。本会は、教育現場にお父様方の技術、人脈、発想という力をお貸しいただくことにより、教職員だけではなし得ない、小学部の良質で多様な教育環境を設定すると共に、父親同士の交流・学習の場として、相互理解を深め、適切な情報交換から、学習運営のサポートを実現し、子ども達との一体感の醸成を目指す会です。



各部会の紹介

スポーツ事業部会

主に運動会における校内警備や来客の対応、当日朝の準備や終了後の後片付けのお手伝いを通して、思い出に残る楽しい運動会を裏方でサポートします。また、三月に行われるスキー教室において、ビデオ撮影、写真撮影、ポールセット、計測、ゲレンデ造作等のサポートをしています。

文化事業部会

二月に六年生の卒業イベントとして行われる親子討論会のサポートをします。親子討論会とは、六年生の子ども達とその保護者による親子間で行われるデイベートの実践であり、討論の経験を通して



自己意見の主張と他人の考え方を聞き入れる能力の向上を目的としています。父の会のサポート内容は、先生方

の後方支援、自主的なテーマ決定の支援、各グループの司会の手配、事前講習会、当日の進行などです。

また、一昨年より三月には、お父様の知識と教養を高めることを目的とする講演会を、年度末総会の日に合わせて開催しています。

危機管理部会

小学部と歩調を合わせ、防犯・防災・交通安全・各種セキュリティ情報の収集など、危機管理に関する幅広いテーマをとり上げ、地道な活動を続けています。小学部の子ども達みんなが、安全で安心な学校生活をおくるためのサポートをしています。

親子交流部会

当部会は、学年幹事のお父様方と協力し、夏の土曜参観日にクラス単位で開催されるお楽しみプログラムの企画・立案・実行に関わるサポート役として、活躍しています。同プログラムの運営を通して、お子様との絆や、保護者同士のつながりをより一層深めると共に、子ども達の間を創る、という有意義な活動をする部会です。

二〇一〇年度父の会会長より

小学部父の会は、「小学部に在籍するすべての児童のお父様全員を会員とする組織」です。先輩お父様達の情熱と小学部および各ご家庭のご理解とご協力に支えられて、今年で、九年目になります。小学部父の会は、お父様方に学校教育の現場におけるさまざまな活動・行事に参画していただき、小学部の教育の充実と発展を支援しています。小学部のお父様達は、職業も年齢もさまざまですが、父親として娘の健やかな成長と幸福を願う、という一点においては、共感し合える存在なのではないでしょうか。お父様方お一人おひとりが抱えている願いを「小学部に学ぶ子ども達全員の笑顔と幸福」につなげていくことが、父の会の活動の本質でもあり重要な役割ではないかと思えます。

父の会には「できる人が、できる時に、できることを」というモットーがあります。一人のお父様の「できる時、できること」がagaraれていたとしても、それが集まり積み重なれば大きな力が生まれます。またそれぞれに素晴らしいご知見や技術を有し各分野でご活躍されているお父様同士が、子ども達のために知恵を出し合い共に汗を流すことは、他では得られない貴重な経験であり、楽しくも充実したひと時となるのではないのでしょうか。人と人とのつながりが生み出す大きな力を信じつつ、子ども達の間を創る、これからは地に足をつけて活動を進めていきたいと存じます。

## Support 『楓祭警備』『進路学習』

今年度の楓祭は10月22日(金)・23日(土)の2日間で7,111名の来校者数となりました。年々来校者が増える中、生徒が安心して発表に専念できるようにお父様方に警備をお願いしています。2003年の楓祭からお手伝いいただき、今回は48名のお父様方にご協力いただきました。ダークスーツでトランシーバー片手の警備姿は、さしずめ「SP」さながらのかっこ良さで頼もしい限りです。特に大講堂でのステージ系クラブ発表はいつも大混雑になり、それをテキパキとさばいてくれて、滞りなくトラブルなく済んでいるのも父親警備のお陰です。

また、中学3年では職業を学ぶ総合学習を行います。その一環として『有識者のお話を伺おう』というタイトルで、社

会人の先輩の話を聞く会を設けました。そこでも社会の第一線で働く父親の出番です。自分の職業観や働く意義などを語っていただきました。今年度は7月8日に行われ、銀行と航空会社にお勤めのお父様方にご協力いただきました。やはり社会で働く大人の話は面白く、中3の生徒達も熱心に聞き入り質問していました。



楓祭警備 大講堂混雑対策の打ち合わせ中です

## Music 『クリスマス音楽会』『ハンドベルフェスティバル』

12月の中高部の名物行事にクリスマス音楽会があります。今年度第24回を迎えたこの音楽会には1997年の第11回からお父様方と高校生による混声合唱が登場しています。当時の父親参加者は14名。この勇気あるお父様方の登場以降、合唱団の歴史が続きます。11月の土曜、日曜の夕方から音楽室にて練習を重ねます。今回は合計10回の練習を積み重ねました。英和のお父様方は音楽好きが多く、しかも、本格的に音楽指導ができる方もいます。また録音・映像撮影・編集など様々な趣味特技を持つ多彩な集団です。合唱のレベルも年々高くなっていきクリスマス音楽会ではお父様方と一緒に歌うことを楽しみにしている高校生との見事なハーモニーで会場を沸かせています。

また、2009年にはハンドベルフェスティバルに初めて「お父さんベル」が登場。野尻で軍手にベルで始まったベルチームが、本格的な音楽会に参加するという無謀な挑戦を成し遂げました。普段は可愛いらしい生徒のベル姿を見慣れている我々

も、恰幅のいい男性のベルの振りっぷりに新鮮な驚きがあり、大歓声に包まれた瞬間でした。2010年も父親リンガーズとしてパワーアップして参加しました。



クリスマス音楽会 練習を積み重ねた成果をお見せします



クリスマス音楽会 高一生徒との大合唱団です



ハンドベルフェスティバル 見事な演奏を披露



謝恩会 卒業謝恩会でも父親合唱団は卒業生のために歌を披露

このように、中高部でも様々な場面でお父様方の支援を受けて、学校行事などが成り立っています。これらの父親有志の実際の活動と学校のためにという意味は、英和の貴重な無形の財産です。参加されるお父様方の中には、娘が卒業してからも『東洋英和楓の会』に所属され学院のためにご奉仕していただいている方も大勢いらっしゃいます。感謝の念に堪えません。これらのお父様方から私達は大きな勇気と支えをいただいています。

## 中高部「父親有志の会」活動

今では他校でも父親が子どもの学校へ協力することが当たり前になりつつありますが、東洋英和の中高部では十数年前から父親の参加協力に目覚しいものがあります。

事の始まりは16年前に行われた111周年記念音楽会でした。1995年10月30日に新宿文化センター大ホールで行われたこの音楽会のトリを飾るプログラムはモーツァルト「戴冠式ミサ」キリエ、グローリア、アニヌス・デイの合奏合唱で

した。高二の音楽選択者と共に合唱する男声有志のコーラスを募ったところ、十数名のお父様の協力が得られました。英和初の混声合唱の誕生です。その後、父親の力を借りて行事などのお手伝いをしてもらおうという流れが生まれ、その流れは徐々に大きく力強くなってきました。現在メール登録数200名以上を誇る中高部父親有志の会による様々な場面で活躍をご紹介します。

### Work『野尻オープニングキャンプ』

今年度で14回目になる野尻オープニングキャンプ。7月17日～19日の2泊3日で実施されました。中高部での夏の野尻野外教育のためにキャンプサイトの開寮作業をお願いしたのは1997年でした。それまで教員とOGで行っていた開寮は、大学生が試験で集まりにくくなり人手不足の問題が浮上してきました。そこで思い切ってお父様方にヘルプを求めたところ17名の協力者が得られました。まだまだ父親の学校参加が少なかった時代、父親を野尻に宿泊させて作業させるというのは大胆な発想でしたが、それに応えてくださったお父様方の存在はその後の活動の礎となりました。それ以来年々人数が増え、とうとう今年度は67名にまでなりました。夏休みの始まりの三連休をわざわざ娘の学校のために作業をしにきてくれるお父様方には本当に感謝に堪えません。夏の始まり



野尻湖の前で全員集合写真です

の野尻湖はまだ水も冷たく梅雨明け間際に雨の作業になることもあります。キャンプサイトの門柱の作成、崖が崩れそうな道の土木作業、栈橋の修繕、ヨットやボートの整備、プール作りなどお父様方は本当によく働き、またよく遊びます。作業後はキャンププログラムも体験します。事前に学校でヨットの講習会まで開催され活気に溢れています。もしかし



プール作りのための湖底掃除の場面です



雨の中、プールまでの道の土木作業です



楽しそうにビッグカヌーを漕ぐお父さん

### 2010年度 父親有志の会 活動一覧

内容		時期	参加人数	始まり
進路学習	有職者のお話	7月8日(木) ロングホームルーム	2名	2009年より
野尻オープニングキャンプ	キャンプサイト開寮作業	7月17日(土)～19日(月)	67名	1997年より
楓祭警備	校内巡回混雑整頓	10月22日(金)、23日(土)	48名	2003年より
ハンドベルフェスティバル	父親リンガーズで参加	11月20日(土)	18名	2009年より
クリスマス音楽会	高校生と混声合唱	12月11日(土)	61名	1997年より

たら私達教員以上に野尻に熱い思いを抱いている方も大勢いるのかもしれない。

父と遊ぶ日

幼稚園では各学年が年に一回お父さまと過ごす行事があります。

今年度、三、四歳児は一〇月九日(土)にお父さま方と小学部の体育館で思い切り体を動かして遊びました。大好きなお父さまを独占でき、子どもたちにとって特別嬉しい日になりました。



前日におやつのカップケーキを作りました。生地をスプーンで型にうつすことに苦労しましたが、こんがりきつね色に焼け、「パパびっくりするよね!」と子どもたちは大満足でした



小学部の体育館で、親子でゲームやリレー、玉入れなどを楽しみました。幼稚園のホールより広い体育館に初めは少し緊張気味の子どもたちでしたが、あっという間に元気な声が響きわたりました



お父さま方だけでクラス対抗の棒引きをしました。子どもたちの声援を受けて、負けられないと、とても白熱した戦いになりました

たくさん体を動かした後は、幼稚園に戻っておやつです。皆で用意したカップケーキはお父さま方にも好評でした



最後に、お父さまに秘密で作っていた「鍵かけ」や「鍵入れ」をプレゼントしました。「お父さま、今日は来てくださってありがとう」プレゼントの説明を一生懸命にする子どもたちの顔はとても嬉しそうでした

五歳児は二月に那須塩原へ父子の遠足にでかけます。

—お父さま方のお力を借りて楽しんだファミリーデー (大学グラウンドにて)—



玉を投げる子どもたちを笑顔で応援してくださいました



迫力いっぱいのつなひきに子どもたちの歓声がありました



お父さま方の腕の上を渡ります



準備にも片付けにも多くのお父さま方のご協力をいただきました

家族と家族がつながって、この日は500人も大きなかえでの家族になりました。お父さま、お母さまも子どもと共に身体をいっぱい動かして過ごしました。



「徐行してください」と車の誘導ボランティアをしてくださったのもお父さま方でした

ミス・ロジャースが  
ゆかりの青山霊園に帰ってきました



故 ロジャース宣教師

二〇〇九年  
一〇月二四日  
に亡くなられ  
たロジャース  
元宣教師のご  
遺族が日本

を訪れました。来日されたのはロジャース先生の姪御様にあたると Mrs. Margot Prichard とそのご夫君です。先生の命日からちょうど一年目にあたる昨年一〇月二四日、鳥居坂教会にて学院との共催でロジャース先生をおぼえての記念礼拝が行われました。先生のご遺志にしたがって青山霊園に先生のご遺灰の一部が納められました。

先生が日本にいらした当時、荒れ果てた青山霊園の外国人墓地修復が切望されてきました。それに応じてミス・ロジャースは、先生の日本での宣教師生活三〇年を感謝して集められたご自分へのお祝い金すべてを捧げ、自らも多くのの人々に働きかけ墓地整備のために奔走されました。

ミス・ロジャースの一途なお働きと、日本に寄せられた篤い思いに改めて深い感謝を捧げ、一同祈りの時を持ちました。



青山霊園にて。来日された姪御様ご夫妻

「麻布未来写真館」パネル展を共催

昨年の十一月二七日〜十二月二七日の間、東洋英和は港区麻布地区総合支所の地域事業として行われている「麻布未来写真館」の取り組みに協力し、「麻布未来写真館」パネル展を学院史料展示コーナーで開催しました。このパネル展は麻布地区総合支所と学院の二箇所で開催されました。懐かしい風景と移り変わりゆく町の様子をご紹介し、広く地域の方々にご覧いただくことで、住民の方々と共に麻布の未来を展望していくことを目指しました。見学者は二七〇名を超え、今後とも地域と連携し、交流を深めていくよい機会となりました。



キリスト教学校教育同盟百周年記念  
作文・エッセイコンテストに  
英和生が入選

【小学生の部】  
優秀賞 大塚理名(小学部三年)

「私のすきなせい書」  
小林祐月(小学部三年)

「わたしのうそと神さま」

【高校生の部】

最優秀賞 中村芽李衣(高等部三年)

「心に余裕」ができる場所」

(学院ホームページトップピックスに全文が掲載されています)

追悼 長岡輝子氏

昨年の二〇一〇年一〇月二八日に長岡輝子氏が老衰のため一〇二歳で亡くなられました。

女優として、また演出家として活躍された長岡氏は一九二五(大正一四)年に東洋英和女学校を卒業されています。在校中、関東大震災犠牲者追悼会で生徒代表として弔辞を述べると、聡明で下級生のあこがれの的であった長岡氏は、当時からその抜きん出た反骨精神あふれる演劇的センスで有名でした。

卒業後は芝居を学びにパリに留学し、テアトル・コメディや文学座を経て、テレビや映画で活躍。NHKの朝の連続テレビ小説「おしん」での大奥様役で広く一般に知られるようになりました。

母校である東洋英和においてもさまざまな行事にご協力いただきました。学院創立百周年記念祝賀会では、オルガン伴奏とともに詩の朗読をご披露くださり、創立二〇周年記念ページェントでは聖書をお読みくださるなど、たくさんの人々に深い感銘を与えてくださいました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。



2003年 学院・同窓会共催の長岡輝子講演会「天国に近づくように」

史料室レター ② 史料室にはたくさんの写真アルバムがあります。



史料室の写真は古くは100年以上前の創立期のものからあります。それらの写真は東洋英和の歴史を語るものとして貴重であり、中高部で創立記念週間に飾られるパネルや学校案内にも使われ、私達に往時の生徒達や先生達、校舎、行事の様子などを教えてください。

ところで、最近では地域の歴史を住民達が見直し、町づくりに生かそうという動きが各地で見られます。ここ麻布地域でも、昨年「麻布未来写真館」という催しがあり、東洋英和からも写真を提供し、会場としても協力しました(上の記事参照)。鳥居坂界隈の風景は明治以来長く東洋英和の建物と共に人びとの記憶に残ってきましたし、所蔵している航空写真などは期せずして周囲の建物の変遷も写し出

ています。

先日は、東洋英和学校(麻布学園の前身)の一期生であった佐々木多門氏(高橋是清内閣の参謀)の子孫にあたる方が来校される機会があり、一期生達の写真が残されていることに感激されていました。このように、史料室の資料類は東洋英和内部だけの財産ではなく、広く社会に還元されるべきものであることが史料室業務の中で日々実感されます。

写真の劣化は止めることができませんが、対策として今年度より、データ化作業に着手しようとしています。



1930年代の鳥居坂、麻布十番周辺

# 大学の研究所紹介

## 死生学研究所

渡辺 和子 (死生学研究所所長)

生と死をめぐる問題は、すべての人が直面するものです。特に現代ではその問題解決に個々人の決断が求められることが多くなりました。そのため年齢を問わず、生きることと死ぬことについての自分自身の考え、死生観をもっていなければなりません。個々人の死生観は文化、宗教、社会、教育からも影響を受けます。当研究所は六本木の大学院校

舎で多彩な公開講座とシンポジウムを開催して、身近な生と死の問題をさまざまな角度から考えています。当研究所のホームページをご覧ください。どの回でもご自由にご参加ください(予約不要)。また研究成果は毎年出版する『死生学年報』(リトン出版)によって公表しています。

死生学研究所<2010年度前半の公開講座>

日程	発表者	所属	題目
2010年 4月17日	河野和雄	本学院オルガニスト	オルガンとハンドベルによるレクチャーコンサート 哀しみと喜びの音楽
5月22日	大井 玄	東京大学名誉教授	終末期医療医から見た存在と時間
6月12日	久保田まり	本学人間科学部教授	愛着外傷の向こう側
	福田 周	本学人間科学部教授	金子みすずの作品と生涯にみる生と死
7月10日	谷川章雄	早稲田大学人間科学学術院教授	墓からみた近世都市江戸の社会
	細田あや子	新潟大学人文学部准教授	「生命の木」のイメージの多様性
10月9日	遠藤 潤	國學院大学研究開発推進機構准教授	近世日本のスピリチュアリズム
	服部健司	群馬大学大学院医学系研究科教授(医学哲学・倫理学)	ドラマで考える医療の倫理
10月30日	奥野滋子	順天堂大学医学部先任准教授	妻の死後も対話を続けた男性
	杉木恒彦	早稲田大学高等研究所客員研究員	インド密教の聖人たちの生と死とその後
	鶴岡賀雄	東京大学大学院人文社会系研究科教授	<死後の生>と<宗教の領分>



谷川章雄先生(早稲田大学教授)の講演「墓からみた近世都市江戸の社会」(2010年7月10日)



『死生学年報2010 死生観を学ぶ』リトン(2010年3月出版)



シンポジウム「生と死とその後」(2010年10月30日)

## 現代史研究所

増田 弘 (現代史研究所所長)

現代史研究所は、国際社会学部を中心として、混迷の時代といわれる現代の諸問題を多角的な観点から解明し、本学の研究レベルの向上に貢献することを目的として2003(平成15)年4月1日に創設された。現代史の専門領域は、政治・外交・経済・安全保障・社会・文化・地域研究・国際関係などきわめて広範囲に及び包括的であるが、歴史の奥深さと機微、歴史のもつ連続性と非連続性などに着目しながら、E・H・カーの指摘する「現在と過去との対話」を深く思索する研究拠点となることを目指してスタートした。

以来、今日に至る7年余の軌跡を振り返るならば、上記に関わる研究科学領域での二十数件の研究プロジェクトを推進したこと、外国の大学教授や政治家など著名な人物を招いての講演会やシンポジウムを開催したこと、特定のグランドテーマを定めて連続研究講座を行っていることが大きな特色となっている(教職

員・学生とともに地元在住者への公開)。とりわけ2008年度の連続研究講座「世界の危機と紛争」は講談社より出版刊行され、09年度「グローバリゼーションが変える? 『世界像』」、10年度「グローバル時代のリスクを考える」も同様の出版を企画中である。以上のような毎年度の成果は『現代史研究』に掲載されると同時に、「ニューズレター」でも紹介され、本研究所の活動内容を広く内外に伝えている。



毎年度の成果が掲載される『現代史研究』



『なぜ世界で紛争が無くならないのか』増田 弘監修 講談社+α新書



2010年度 現代史研究所 社会技術研究所共催 連続研究講座「グローバル化時代のリスクを考える」第5回(11月12日)「越境するリスクと政治の境界」講師:青山学院大学国際政治経済学部 納家政嗣教授

## 保育子ども研究所 (子どもセンター)

保育子ども研究所 (通称: 子どもセンター) は2007年2月、人間科学科保育子ども専攻創設に伴い設立されました。研究所は、文部科学省の資質の高い教員養成推進プログラムで採択された「経験・省察・連携による教員養成」のプロジェクトⅢ～他者・社会との連携～に位置づけられ、「保育・幼児教育研究の発展に寄与し、研究成果を学内外に発信していく拠点」であり、「カナダ・メソジスト婦人宣教師たちが創め、生徒・学生たちに浸透していった伝道・教育・社会事業の働きを継承し、社会と連携して子どもの幸せのために仕えていく」東洋英和の精神をつなぐものとしての使命 (Newsletter No.1) を持っています。

研究所では、この使命・目的にしたがって次の事業を展開しています。①親子プレイグループ (1.5歳～3歳の未就園児とその親を対象とした週1回のプレイグループで春・秋・冬季開催)、②子どもの広場 (春・秋にキャンパスを開放して催す遊びの広場、企画は学生が担当)、③保育子どもセミナー (年1回開催する現職者対象のセミナー)、④子どもセンター Newsletter、及び保育子ども年報の発行、⑤研究会、研修会の企画・開催。

研究所の事業は、保育子ども学科の教員を中心として大

飯島 千雍子 (保育子ども研究所所長)

学の教員、学生、職員、卒業生のほか、地域の方々、実習でお世話になっている各施設もかかわって展開されています。今、真の交流・連携が必要な時です。内に外に開かれた研究所として、子どもに社会に仕えていくことを目標としています。



## メディア・コミュニケーション研究所

メディア・コミュニケーション研究所は、昨年4月に開設されたばかりの新しい研究所です。2010年度の学部改編により、国際社会学部国際社会学科にメディアコースが新設されたこともあり、現代社会においてますます複雑性と重要性を増すメディアとコミュニケーションについて、人文・社会科学からの視点からの研究・教育を行う学内機関として設置されました。

今年度の活動としては、昨年9月25日には、映画評論家佐藤忠男氏、映像作家熊谷博子氏・石井彰氏をお招きし、開設記念シンポジウム「記録映像の世界と人々『シリーズ日本のドキュメンタリーを語る』」(協力:岩波書店)を催し、学院内外の多くの方々にご参加いただきました。そのほかに、「世論調査をめぐるさまざまな問題点」をテーマに、学内研究会を今までに3度開催しました。第1回は、統計数理研究所名誉教授大隅昇先生をお招きし、「ネット調査の現状と課題」(6月26日開催)を、第2回はNHK放送文化研究所の小野寺紀子先生に「世論(社会)調査の現状と問題点」(7月30日開催)を、第3回は毎日新聞社世論調査室長七井辰男先生に「世論調査と政治報道」(10月15日開催)について

高木 栄作 (メディア・コミュニケーション研究所所長)

お話をいただきました。また、12月9日にはNTTドコモモバイル社会研究所の篠崎俊哉氏を講師としてお招きし、学生向け講演「携帯電話の歴史とモバイルメディアの将来」も開催しました。本研究所は今まさに、よちよちと歩き始めたばかりであり、試行錯誤を続けておりますので、暖かく見守っていただければ幸いです。



開設記念シンポジウム「記録映像の世界と人々」

## 国際協力研究科では連続公開講座 <21世紀を予測する> が開かれています

大学院国際協力研究科長 三橋 利光

大学院国際協力研究科では、毎年後期に授業の一環として<ワークショップ>オムニバス講義が夜、開かれます。本年度のテーマは<21世紀を予測する>という大胆なテーマで、一般公開しています。地域研究領域と国際学(国際政治学を含む)領域を専門とする学内スタッフ多数と、一部外部の著名講師の協力が得られました。毎回異なる研究者が、その学問に蘊蓄を傾けた成果としての貴重な講義が聞けるのです。少人数ながら和気あたたかい雰囲気、いつも講義後は出席者からの矢継ぎ早の質問と、熱のこもった討議が続き、時間のたつのが惜まれるほどです。時には講師が熱心さの余り、終了時刻ぎりぎりまで講義を続け、質問は残念ながら一つだけ、という時もありました。現時点(2010. 11.5)では、ジャック・アタリの『21世紀の歴史』の紹

介に続いて、中国・東南アジア・米国・ロシアの専門家から、それぞれ取って置きの話が披露され、各地域の将来を考察する際の中核となる部分ほどの辺りにあるかを学びました。院生の一人の留学生は、「この講座が終わる頃には、私たちには今後の世界が見えてくる感じですね」と楽しそうに語っています。このワークショップの各講義内容は、予算の都合がつけば、来年度早々に小冊子として発行し、大学院内の教育用、外への広報用に役立てられれば良いと願っています。



## 卒業生紹介 アナウンサーの現場で思うこと

本橋 亜希子 沖縄テレビ放送株式会社  
人文学部人間科学科1995年卒業

午後5時を過ぎると、報道部内の電話があちらこちらで鳴り響く。記者たちが原稿を打ち込むパソコンの音も徐々に大きくなる。どんな喧噪のなかでも私は平静を保って午後5時50分に席を立ち、原稿とストップウォッチ、愛用のペンを持ってスタジオへ。その4分後から「本番」が始まる。

またある日は、レストランをイメージしたスタジオに県内で活躍する芸術家や歌手、スポーツ選手を招いて和やかなトークを展開し、笑顔の花が咲く。

地元、沖縄でアナウンサーの仕事に就いて15年が経った。情報を正確、的確に伝える責任感、取材を通して会おう人々から得られる様々な価値観に、心地よい刺激を感じる毎日である。

思えば私は子どものころからアナウンサーになる夢を抱いていた。どうすれば夢を叶えられるかを想像し、地元の県立高校から推薦枠を利用して東洋英和女学院大学へ進学した。自主性と品格を重んじ、見識を広げる大学の校風は、私の夢を叶える上で

大きな源となった。

これから社会に出る皆さん。

社会に出たら無限の可能性が皆さんを待っている。だからこそ、充実した大学生活を送り、早いうちに夢を抱いてほしい。それは複数あってもいい。夢を持ったら「そこに近づくために今、何ができるか」を具体的に考え、その一歩を踏み出してほしいのだ。

私がよく想像するのは、リレー競技で走者がバトンを次の人に渡す場面。次にバトンを受ける走者も走り出しておけばスピードは落ちることなく勢いは持続する。つまり「先の走者」は「大学生の自分」、バトンを受け取る次の走者は「社会に出る自分」なのだ。在学中にスピードを加速させ、「人生というバトン」を「未来の自分」に渡してほしい。



## OG 交流プラザ(就職相談会)を開催

2008年から取り組みを始めた大学同窓会楓美会が主催する在学生のための就職相談会。今年はキャリア就職課と共催で“OG 交流プラザ”と名前を変更し、2010年11月3日のかえで祭の催事として開催しました。当日は2004年以降の卒業生13名(金融、航空、商社、福祉、学校職員など)が相談員として参加し、在学生約40名、在学生保護者、大学に合格したばかりの高校3年生が相談(就職活動の体験や会社の社風、一日の仕事の流れなどについて)に訪れ、終始和気あたたかいといつまでも話が尽きませんでした。ご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。



## OG 訪問ご協力をお願い

就職氷河期の再来と報道されているように、女子学生の就職活動はとてつもない状況です。就職活動中の学生にとって、実際に現場で働かれている先輩からお話を伺うことは、非常に有意義な機会となります。後輩の熱意をお汲み取りいただき、是非OG訪問へのご協力をお願いいたします。

ご不明のことがございましたら大学キャリア就職課までお知らせ願います。

東洋英和  
幼稚園



創立記念日礼拝(3、4歳児)

- 始業礼拝 9月6日(月)
- 園児引き渡し訓練 9月10日(金)
- 祖父母の会 9月30日(木)  
五歳児が祖父母の方に楽しんでいただけるように、シヨール、休憩、乗り物のコーナーを考え、係を担当しました。今年は一五三名の方において頂きました。
- 父と遊ぶ日 10月9日(土)
- 三、四歳児がお父様と小学部体育館や幼稚園で一緒に楽しく過ごしました。
- 創立記念日礼拝 11月5日(金)  
三、四歳児は幼稚園ホールにて、五歳児は中高部メモリアルチャペルにてお母様と共に礼拝を守りました。
- りんご園遠足 11月12日(金)  
年長組が長野県上田市のりんご園にでかけ、りんごをもぎました。

大学付属  
かえて幼稚園



父親講演会講師の市橋隆雄先生による父子体操プログラム

- 五歳児追分キャンプ 9月1日(水)～3日(金)  
行きは園から貸切バスで、帰りは電車乗り継いでの旅でした。
- 父親講演会 10月2日(土)  
ケニアコイノニア教育センターの市橋隆雄先生が、お話と共に父子のふれあい体操プログラム時間をもちていただきました。
- 四、五歳児フアマリーデー 10月16日(土)
- 三歳児オーブンデー 10月18日(月)
- 砂遊びやお家ごっこ、かけっこなど、子どもが園で好きになった遊びを親子で共有しました。
- 創立記念日礼拝・音楽会 11月5日(金)  
東洋英和女学院の枝のひとつとして、主イエス様につながって歩むことを覚え礼拝しました。

小学部



6年生 修学旅行

- 修学旅行 9月21日(火)～24日(金)  
東北に住む人々の様子や産業、またそれらを生み出した風土に実際に触れる旅行となりました。
- 球技会 10月13日(水)～19日(火)  
一～三年生は、ドッジボールと大縄、四年生は、ポトボールと五、六年生はバスケットボールを行いました。どの学年も熱戦で、大いに盛り上がりました。
- 小羊会総会 10月25日(月)  
各委員会の委員長を中心に、よりよい学校生活を送るための方法を、四年生以上の全学年が集まって話し合いが持たれました。
- 創立記念日礼拝 11月5日(金)  
創立一二六周年のため、小学部では、張替讓先生をお迎えして、一緒に礼拝を守りました。

中高部



体育祭—台風の日—

- 体育祭 10月11日(月・祝)  
秋晴れのもと、大学のグラウンドでリレーや騎馬戦、今年は新種目に障害物競争なども加わり熱い戦いが繰り広げられました。優勝は青(五組)でした。
- 楓祭 10月22日(金)～23日(土)  
今年のテーマは「グレイスフル」。各クラブや参加団体が活動の成果を発表し、体育館とグラウンドでは招待試合が行われました。入場者は七、一一一名でした。
- 創立記念日式典 11月5日(金)  
大講堂で中学生、高校生それぞれが英和の成り立ちや歴史に思いをはせ礼拝を守りました。
- 中学部球技会 11月19日(金)  
バスケット、バレー、卓球の種目別に各クラスのチームが練習を重ね、当日はクラス一丸となって試合や応援を頑張りました。

大学  
大学院



かえて祭

- (大学) かえて祭 11月2日(火)～3日(水・祝)  
テーマは「華～FLOWER～」両日とも天気がよく暖かい日で、多くの人が訪れました。実行委員の皆さん、ご苦労様。
- 保護者と教職員の懇談会 11月3日(水・祝)  
軽食をいただきながら、保護者の方々と懇談しました。大学の取り組みなどもご理解いただくよい機会となりました。
- オープンキャンパス 9月18日(土)、11月20日(土) (大学院)
- 大学院授業見学週間 (人間科学研究科のみ) 11月15日(月)～20日(土)
- 入試説明・相談会 国際協力研究科 10月23日(土)  
人間科学研究科 11月20日(土)

## 当事者となった高次脳機能障害専門家の経験



一九七二年 高等部卒 関啓子

せきけいこ

国際基督教大学（ICU）語学科卒。国立障害者リハビリテーションセンター学院聴能言語専門職員養成課程卒。言語聴覚士、医学博士。（財）東京都神経科学総合研究所、中村記念病院（札幌市）などを経て、一九九九年神戸大学医学部助教授に着任。医学部教授を経て、二〇〇八年神戸大学大学院保健学研究科教授。人間情報学会理事、日本高次脳機能障害学会評議員、日本神経心理学会評議員など高次脳機能障害の領域で活動中の二〇〇九年七月脳梗塞を発症。懸命のリハビリの末、二〇一〇年五月、職場復帰。

英和卒業から

言語聴覚士（ST）になるまで

私は高等部卒業後入学したICUの聖書研究会の活動で信仰を持ちました。英和時代、毎朝の礼拝や授業で学んだ聖書の言葉が、私の中で育っていたおかげかもしれません。ICUでは言語学を学び、その特別授業の中で「失語症」という脳損傷後遺症を初めて知りました。当時、ビデオは未整備で、失語症とはどのような症状かを知りたいと思った私は、講師の先生にお願いして臨床を見学させていただくことになりました。伊豆の温泉病院での失語症治療の見学は一週間に及び、その初期に、私はその後の人生を大きく変えた患者さんに出会ったのです。その方は、身体の麻痺はなく日本語らしく聞こえるものの理解不能な言葉をペラペラと話され、自分の言うことが相手に通じていないことに全く気づかない様子でした。後で知りましたが、この方はウェルニッケ失語というタイプの失語症をお持ちだったので。詳しくは拙著「失語症を解くー言語聴覚士が語ることばと脳の不思議」へ人文書院二〇〇三年を参照下さい。

私は、さりげない口調で会話する講師の先生と、この宇宙語を話す患者さんのやりとりに驚愕して、このようなことが起こり得るのだろうか、もしできることなら、このような方のために自分の言語学の知識や経験を突き込んで全力でよくしてあげたい！と思いい、即座に言語の専門家になる決心をしました。

私は、その後、卒論資料収集のため、スペインに一年間滞在し、フィールドワークをしました。その間もSTになる夢を忘れませんでした。私は、高齢の患者さんに接するには社会経験を積む必要があると思いい、帰国後は就職氷河期にもかかわらず、東京銀行を受験し、無事社会人となりました。貴重な社会人生活と結婚を経て、憧れのST養成課程に入学したの

は、その五年後のことでした。

言語聴覚士としての私の歩み

養成課程を卒業した私は東京都の医学研究所に就職し、さつそく失語の改善技法に関する研究を始めました。その頃、STは国家資格ではなく、研究所時代やその後の北海道時代に臨床に従事した病院で「無資格診療」と揶揄され、肩身の狭い思いをしたものです。むしろ、患者さんの役に立つという臨床や研究をして、とやかく言う人に対して恥ずかしくない仕事をしようと、懸命に頑張ってきました。あれから三〇年近く経った今では、STも国家資格となりました。私は失語をはじめとする高次脳機能障害の専門家であることに、常に誇りを持って仕事をしてきました。

東京都神経科学総合研究所時代には、高次脳機能障害に関する論文や図書を執筆し、多くの大講義を担当し、講演もこなすなど、この領域において多少なり

とも名前が知られる存在になりました。

晴天の霹靂

神戸大学に単身赴任して十一年度の二〇〇九年の七月、突然の脳梗塞が私を襲いました。当時、私は大学と研究科の要職につき、大学院生を二〇人ほど抱える大きな研究室を運営して多忙な毎日をおこなっていました。自分で自分の生活を「セブン・イレブン」と評していたほど、激務の中にいました。その私が日中、繁華街で倒れた心房細動による心原性脳塞栓症でした。目撃者のおかげで、私は近くの市立病院に救急搬送され、発症三時間以内が有効とされる血栓溶解療法を受けました。幸いにも、私の同僚や大学院生はリハビリテーションの専門家であり、私はこの専門家集団のサポートにより、急性期を過ごすことができました。その後、転院した回復期リハビリテーション病院でも、復帰

を目標に、ひたすらリハビリテーションに打ち込み、発症から一〇カ月経った二〇一〇年五月に職場復帰を果たしました。これまで診てきたどの脳卒中後の患者さんよりも早い復帰でした。この全経過において、私は専門家としての自分の知識や経験を高次脳機能障害の回復に役立てることができました。現在の私は左上肢の麻痺が残存し、発話にもプロソディ（韻律）の障害があります。発症以来、「発症前の自分と今の自分を比べないこと、焦らない・悔しがらないこと」に気をつけてきた私は、自分の全ての経験を医学的データとともに記録し、世に発信したいと思いい、図書を執筆中です。脳損傷後遺症としての高次脳機能障害について、一般の人があまりにも知らないことを痛感し、専門家に対して効果的な臨床に役立つ情報提供をしたいと思いい、今後は、自分の経験を図書と講演を通してお伝えしていきたいと願っています。

光の子として歩みなさい。  
 光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。

エフェソの信徒への手紙 五章八〜九節



吉岡康子牧師による野尻改築感謝キャンプでの礼拝

「暗い暗いと不平を言う前に光の子として進んで灯を掲げ、進みきなさい」と英和の小学部の礼拝で教えられました。中学部・高等部在学中に毎年参加した野尻キャンプでは、漆黒の闇に輝くキャンプファイヤーを囲んでの礼拝で「神の光を受けて、明るさとあたたかさを隣人と分かち合う光の子として生きましよう」とのメッセージをいただきました。もう何十年も前の事です。しかし、英和生だった時に与えられたこの御言葉が、牧師として人々と共に歩む現在へと導いてくれました。そして「輝きつつ、活き活きと生きよ」と日々私を励ますのです。

日本基督教団吉祥寺教会牧師

青山学院女子短期大学宗教研主任

(一九七九年 高等部卒業)

吉岡 康子

教室の合間の憩いの場。ブックスペースを訪ねました

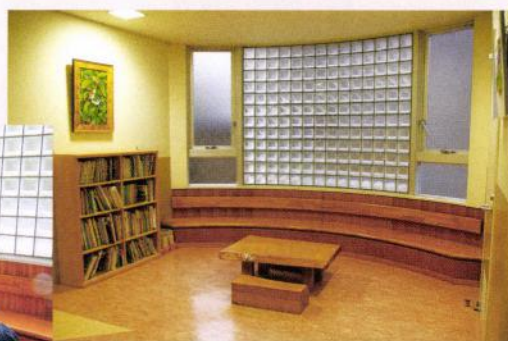
小学部の校舎に入ると、なんともいえない楽しい雰囲気があります。この感じはどこから来るのかと考えると、子ども達が作った美術作品が並べられていたり、水槽が置かれていて小さな生物が暮らしていたりする、ゆったりとした空間にその秘密があるようです。なかでも教室と教室の間や廊下に置かれている本棚とゆるやかなカーブを描く木のベンチがあるコーナーに目が留まりました。ここが小学部のブックスペースです。

ブックスペースは全部で六カ所、各学年に合わせて設置されています。選書は司書教諭の東夏子先生がしてくださっていて、図書室で貸し出しをしなくなった書籍がこのスペースに置かれ、休み時間などに読書や調べものができるようになっています。特に一年生や二年生は二階にある図書室にはまだ入れないので、このブックスペースで本と出会うことが大事な機会になっています。さらに、ここ

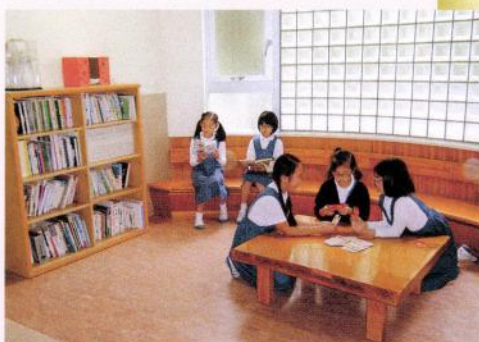
は読書だけでなく、休み時間にお友達とおしゃべりをしたりトランプをしたり、先生とお話をしたり、いろいろな使われ方をしています。日常生活の流れの中で、ふと、このスペースに立ち寄ることで、子ども達は心を遊ばせて創造力の芽をはぐくんでいるのかもしれない。



各学年に1棚ずつ、それぞれの学年に合った本が並んでいます



木のぬくもりを大切にしたベンチとテーブルです



本を読むだけでなく、おしゃべりしたりゲームをしたり。いろいろな使われ方をしているコーナーです

# 英和の植物通信

～目を近づければ楽しさ無限～ No.23

絵・文・写真：中池 敏之

(大学非常勤講師：博物館概論等担当)



シュンラン (横浜キャンパス)



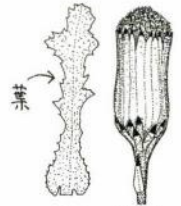
カキドウシ  
茎は這って長く伸びる。  
まさに垣越しどである。



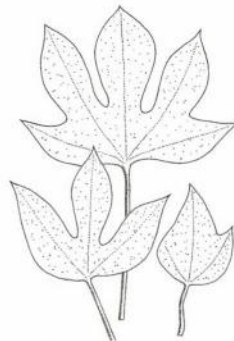
コブシ  
花芽は暖かい毛糸の  
帽子をかぶっている。



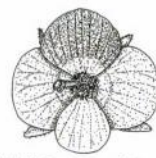
ネズミモチ  
実の色は黒。方言に  
ネズミクソあり。納得。



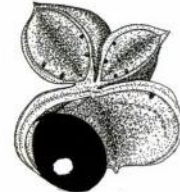
ノボロギク  
花の色は部分によって、黄  
緑、黒色のオシャレな配色。



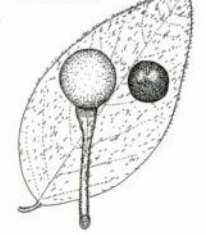
カクレミノ  
一本の木のなかで葉の形は  
色々。茶庭に利用される。



オオイスノアグリ  
庭園はルリ色の花が満開  
だが夕方には見られぬ。



ゴンズイ  
実の内と外は紅色。外口  
黒色。息とロクがための配色。



ママコバシ  
冬になると葉が枯れ、枝  
枯葉は枝に付いている。

## シュンラン (春蘭)

あたりはまだ冬の気配、クスギなどの落ち葉の中から薄緑色の花を咲かせているシュンランは、ちょうど、子どもが「わーい春だ」と両手を広げているようで、この花を見ると、何とも嬉しい気持ちになる。

かつて里山のいたるところに生育していたシュンランは、最近の環境変化でその数が激減してきている。いまだ、横浜キャンパスでは、この植物に接することができるのは、まことに幸いなことである。

この植物、かつてはヒビ、アカギレの民間薬に、花を塩漬けにして蘭茶として、また、花の形から子ども達のちょっとおもしろい遊びに利用された。

## 一般公開行事のご案内

東洋英和女学院大学  
オーケストラ部コンサート

- 日時 2月26日(土) 14:00開演
- 会場 戸塚公会堂 (横浜市営地下鉄戸塚駅より徒歩約10分)
- 曲目: メンデルスゾーン/交響曲第4番「イタリア」、スメタナ/『わが祖国』より第2曲「ヴルタヴァ (モルダウ)」
- 入場無料

## 第15回 器楽科・ピアノ科発表会

- 日時 3月12日(土) 13:00～16:00
- 会場 新マーガレット・クレイグ記念講堂
- 出演 中高部器楽科・ピアノ科生徒

## 東洋英和女学院学院報 楓園 第63号

発行日：2011年2月7日  
編集：広報委員会  
発行：学校法人 東洋英和女学院  
東京都港区六本木 5-14-40  
TEL 03-3583-3325  
メールアドレス  
koho@toyoeiwa.ac.jp  
ホームページアドレス  
http://www.toyoeiwa.ac.jp

同窓会クリスマス礼拝報告  
二〇一〇年十二月四日(土)、照葉の美しい午後、六本木校地中高部の新マーガレット・クレイグ記念講堂にて同窓会クリスマス礼拝が守られました。説教者には前高等部部長の佐藤順子先生をお迎えし、「救い主との出会い」と題したお話の、星に導かれてキリストのご降誕に出会った博士達様が別の道で帰って行った事は、出会いの後の生き方が変えられた事であり、物の豊かさや、世間の評価に拠らないキリストの平安の中に私達は生きて行きたいとのメッセージは心に深く届く励ましとなりました。



佐藤順子先生のお説教



辻ファミリーのコンサート

後半は一九八〇年高等部卒業の辻悦子さんが、音楽ご一家の長兄の秀幸様、ご主人志朗様と共にファミリーコンサートとして楽しい演奏会を催して下さいました。スタインウェイピアノでのご主人との連弾はうっとりするような演奏で、「メサイアをうたう会」の指揮者として同窓生にはお馴染みの秀幸様のテノールの歌声は講堂内に美しく響き渡りました。歌唱指導つきでご準備下さった讚美歌、「オーホーリーナイト」から最後の「ハレルヤ」まで、大変上手に歌えた気分になりました。

多くの方々のお支えで今年も素晴らしいクリスマス礼拝を迎えられました。幸いを感謝致しました。

同窓会より